



環境経営の推進、環境への配慮を基本とした 事業活動を進めています

グループ環境ビジョン2030の実現に向けて

持続可能な社会の実現に向け 「グループ環境ビジョン2030」の目標達成に取り組んでいます。

ヤンマーグループは、「パリ協定」および「持続可能な開発目標（SDGs）」の目標年にあたる2030年時点の到達目標として、2018年7月に新たに「グループ環境ビジョン2030」を策定しました。

新たな環境ビジョンでは、これまで進めてきた4分野の目標達成に向け、引き続き各施策に取り組むとともに、地球温暖化対策で新たに設定した「事業活動におけるCO₂排出量原単位30%削減（2005年度比）」の達成に積極的に取り組んでいます。

2020年には第五次環境中期計画の策定を予定しており、「グループ環境ビジョン2030」達成へのより具体的な道筋を示し、持続可能な社会の実現に貢献していきます。

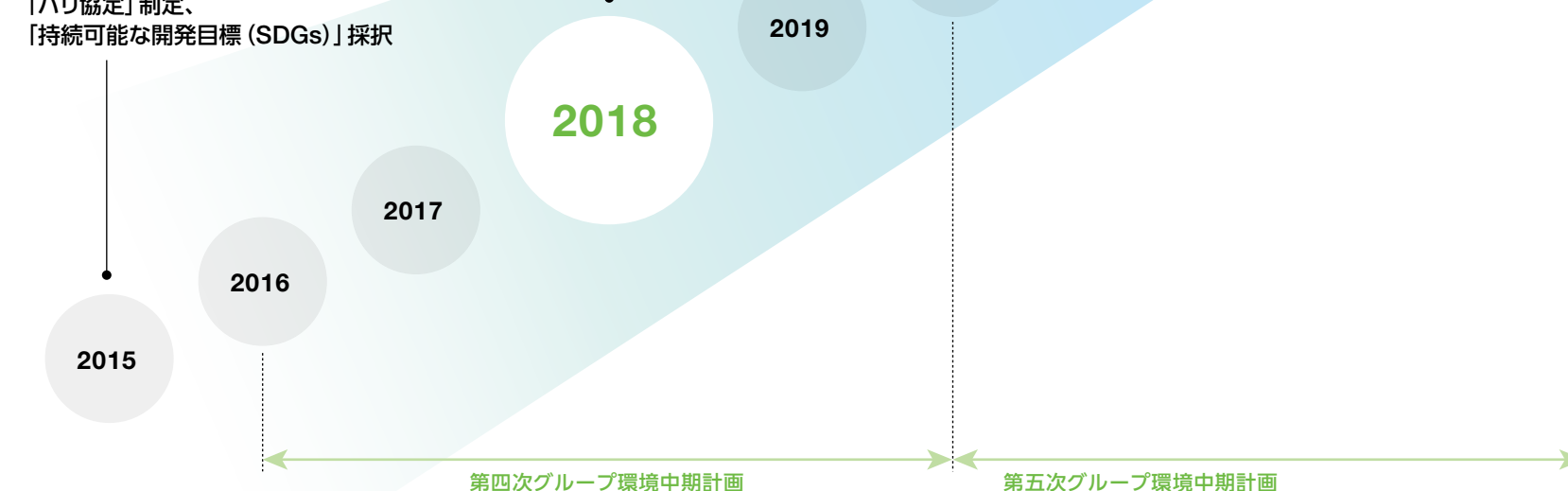
環境関連で貢献できるSDGs



「第五次グループ環境中期計画」策定予定 (対象年度 2021～2025)

「グループ環境ビジョン2030」策定

「パリ協定」制定、
「持続可能な開発目標（SDGs）」採択



グループ環境ビジョン2030

ヤンマーグループは、
環境に負荷を与えている製品を扱っていることを認識し、
地球温暖化問題の解決と、
持続可能な社会の実現に取り組んでいきます。

1.地球温暖化対策

- ・製品のライフサイクルにおけるCO₂排出量を削減
- ・事業活動におけるCO₂排出量を2005年度比 30% 削減（原単位）

4.生物多様性への取り組み

- ・自然との共生に配慮した事業活動の推進
- ・生態系の保全に貢献する製品・サービスの提供

持続可能な社会を実現

2.資源循環型社会への貢献

- ・事業活動における廃棄物を削減
- ・リサイクル資源の有効活用を推進
- ・製品の3R（リデュース、リユース、リサイクル）を推進

3.環境負荷物質の削減・管理

- ・環境負荷物質の使用量削減
- ・サプライチェーン全体で環境負荷物質を管理

4分野における目標（2025年時点）

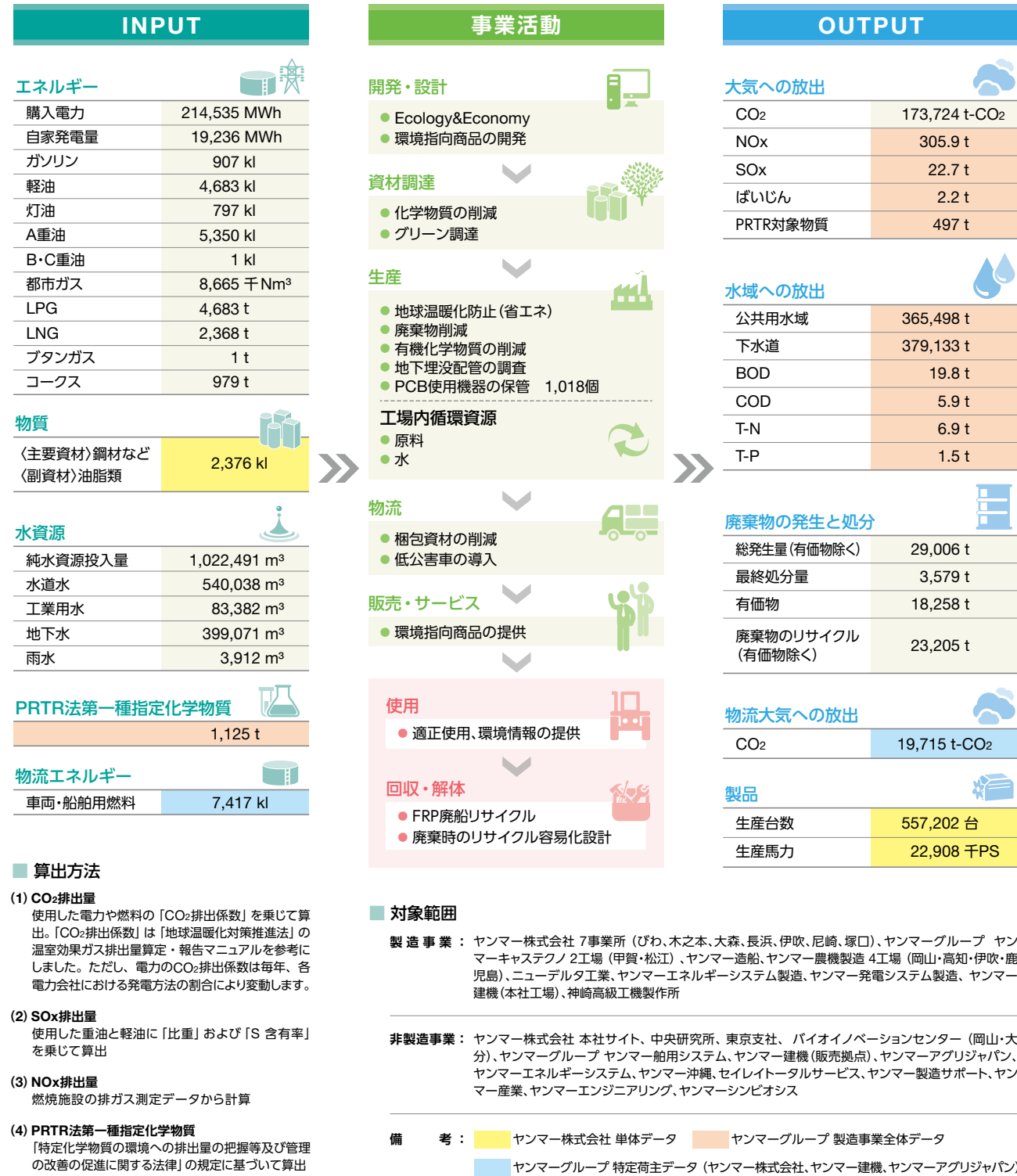
| 分 野 | 目 標 |
|----------------|--|
| 1.地球温暖化対策 | <ul style="list-style-type: none"> ・サプライチェーン全体のCO₂排出量の把握、排出削減に向けた取り組みの推進 ・グループ製品・サービスによるCO₂削減貢献量の算定・公表 |
| 2.資源循環型社会への貢献 | <ul style="list-style-type: none"> ・グループ全事業所の廃棄物リサイクル率 95%以上 ・廃製品のリサイクルネットワークの確立、廃製品リサイクル率の集計・公表 |
| 3.環境負荷物質の削減・管理 | <ul style="list-style-type: none"> ・グループ全製品の有害化学物質使用情報の公表 ・グリーン調達 ▶ CSR調達へのレベルアップ（サプライチェーン全体への展開完了） |
| 4.生物多様性への取り組み | <ul style="list-style-type: none"> ・グループ生物多様性ガイドラインの策定およびサプライチェーンへの展開・遵守 ・グループ基準をクリアした「環境配慮商品」の、売上高比率 50%以上 |



環境負荷の全体像

ヤンマーグループは、事業活動のなかで、原材料の調達から生産、輸送、流通、使用、廃棄にいたるまでの全過程における環境負荷を定量的に計測・把握し、その削減に取り組

組むことが重要であると考えています。2018年度はデータ集計の対象範囲を広げ、一部のデータを除き、国内の製造事業所から国内グループ会社に変更し、環境負荷の計測と必要なデータの集計を行いました。



地球温暖化対策

CO₂排出量の把握・削減に努め
地球温暖化防止に貢献しています■製品のライフサイクルにおけるCO₂排出量の把握と削減

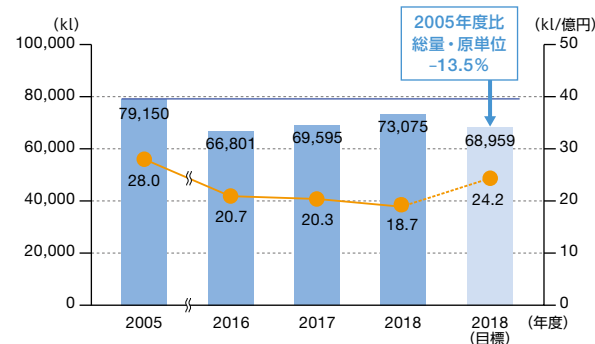
ヤンマーグループは、LCA（ライフサイクルアセスメント）による製品のライフサイクル（原材料の調達から、製造、流通、使用、廃棄まで）における温室効果ガス（CO₂）排出量の定量的把握・評価を行い、グループ製品による温室効果ガスの削減（原単位）を進めています。

引き続き、今後のスコープ3情報の開示に向け、グループ全事業のLCAデータの把握と、環境データ公表範囲の拡大を進めるとともに、次期環境中期計画での数値目標の設定を検討します。

■事業活動におけるエネルギーの効率使用とCO₂排出量の削減

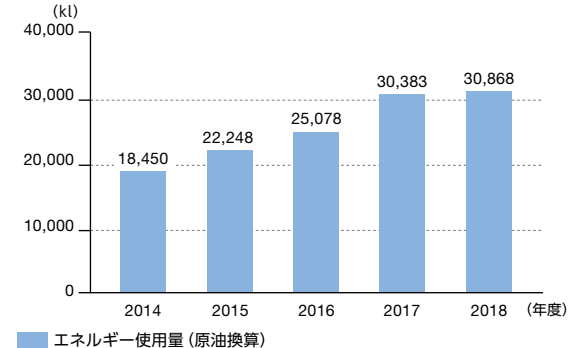
ヤンマーグループは、国内に展開する全生産事業体にお

エネルギー使用量・エネルギー使用量原単位（国内）



■ エネルギー使用量（原油換算） ■ エネルギー使用量原単位
※2016年度実績より ヤンマー（株）伊吹生産部、ヤンマー農機製造（株）鹿児島事業所を追加

エネルギー使用量（海外）



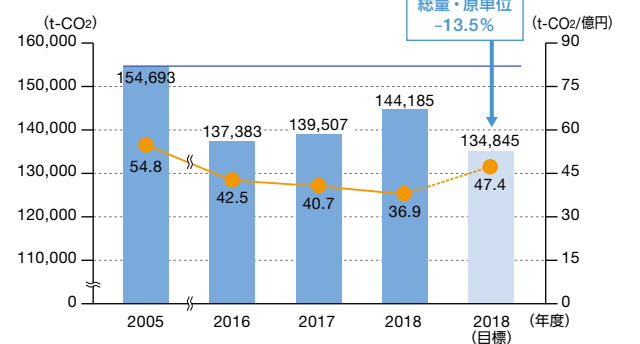
対象事業会社：【北米・中南米】YANMAR AMERICA, TUFF TORQ, TRANSAXLE MANUFACTURING OF AMERICA, YANMAR SOUTH AMERICA INDUSTRIA DE MAQUINAS 【欧州】YANMAR EUROPE, YANMAR ITALY, YANMAR CONSTRUCTION EQUIPMENT EUROPE, YANMAR COMPACT GERMANY 【アジア(インドネシア)】YANMAR DIESEL INDONESIA, YANMAR AGRICULTURAL MACHINERY MANUFACTURING INDONESIA, YANMAR INDONESIA, YKT GEAR INDONESIA, YANMAR S.P., 洋馬農機（中国）、洋馬発動機（山東）

いて、生産活動に使用する電力や燃料などあらゆる種類のエネルギーを効率的に使用する態勢をとるとともに、省エネ設備への更新、試運転効率の改善・エネルギー再利用等の活動を通じて、CO₂の排出量削減に取り組んでいます。

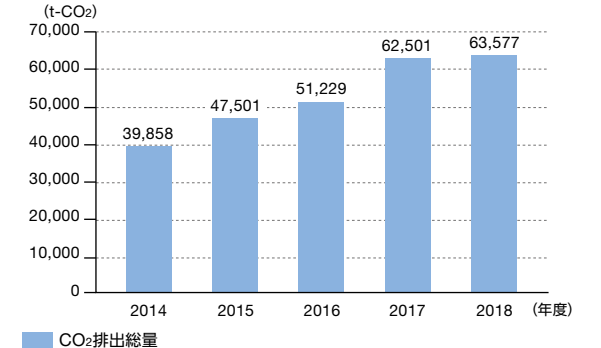
また、ピーク電力の使用量削減と、自然災害などによる送電停止リスクの低減を目的として、自家発電設備・GHPの積極的な導入も進めています。

2018年までの削減目標は、国内製造事業においてはエネルギー使用量の総量および効率使用の指標となる原単位で13.5%、CO₂排出量も同じく13.5%に設定しています（いずれも2005年度比）。

2018年度はエンジン事業の生産増により、前年度と比較してエネルギー使用量は3,480klの増加、CO₂排出量は4,678tの増加となり、総量の削減目標値を超過しましたが、原単位については前年度に引き続き目標を達成することができました。

CO₂排出総量・CO₂排出量原単位（国内）

■ CO₂排出総量 ■ CO₂排出量原単位
※2016年度実績より ヤンマー（株）伊吹生産部、ヤンマー農機製造（株）鹿児島事業所を追加

CO₂排出総量（海外）

対象事業会社：【北米・中南米】YANMAR AMERICA, TUFF TORQ, TRANSAXLE MANUFACTURING OF AMERICA, YANMAR SOUTH AMERICA INDUSTRIA DE MAQUINAS 【欧州】YANMAR EUROPE, YANMAR ITALY, YANMAR CONSTRUCTION EQUIPMENT EUROPE, YANMAR COMPACT GERMANY 【アジア(インドネシア)】YANMAR DIESEL INDONESIA, YANMAR AGRICULTURAL MACHINERY MANUFACTURING INDONESIA, YANMAR INDONESIA, YKT GEAR INDONESIA, YANMAR S.P., 洋馬農機（中国）、洋馬発動機（山東）

GLOBAL TOPICS 中国
洋馬発動機（山東）有限公司3,000kWhの大規模太陽光発電システムを設置し、
CO₂排出量を約1,800t削減

ヤンマーグループ会社の洋馬発動機（山東）は、省エネルギー活動の一環として事業所の屋根に大規模な太陽光発電システムを設置し、2019年2月から本格稼働を開始しました。

最大発電量は3,000kWhで、年間約350万kWの発電量を見込んでいます。これは2017年度比で事業所全体における電力使用量の約40～50%にあたり、これにより、約1,800tのCO₂排出量を削減することができます。

太陽光発電にかかる電力使用コストは、市場価格の9割で設置業者から買い取る仕組みで、年間約25万元のコスト削減につながります。



屋根に設置した太陽光発電システム

資源循環型社会への貢献

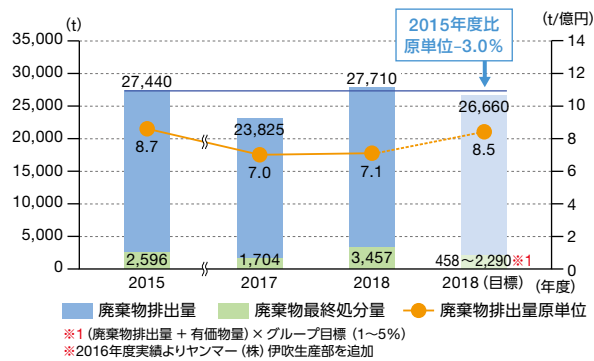
限りある資源の有効活用に向け
省資源化に取り組んでいます

■事業活動における廃棄物の削減とリサイクルの推進

ヤンマーグループは、生産工程における廃棄物発生量の削減に取り組むとともに、廃棄物の分別によるリサイクル化と有価物化を推進しています。

各工場では分別を徹底するために廃棄物の収集場、各現場、事務所などに分別表を掲示するとともに、社員教育の実施やパレットのリターナブル化など再資源化に取り組んでいます。工場から排出される廃油については、生産工程での異物混入を防止することで有価物化し、資源を有効利用しています。また、グループでの廃棄物の多くを占める鋳造系廃棄物について、電気炉の導入により大幅な削減に成功し、さらなるリサイクルの拡大を進めています。

廃棄物排出量および原単位と最終処分量（国内）



国内製造事業の廃棄物排出量については、2018年度は2015年度比で原単位3.0%以上削減することを目標としていましたが、実績は18.9%の削減となり、目標は達成することができました。

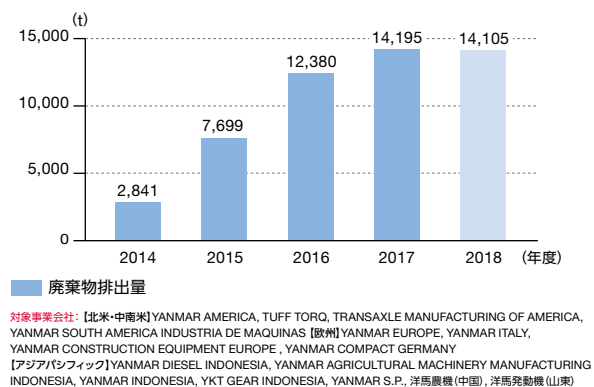
■製品の3Rの推進

ヤンマーグループは、各国のリサイクル法令の遵守を目的に、製品に含有される有害化学物質の削減、製品情報の提供・公表などの取り組みを行っています。さらに、グループの商品アセスメント規程において、リサイクル・省資源に関する評価を採用することにより、製品開発に係る従業員の意識向上に努めています。

また、アグリ・建機事業では中古製品の回収・再販売、マリン事業では廃船に使用されるFRPのリサイクルなどに取り組んでいます。

今後は、製品のリサイクルに関するデータの把握、グループ目標の設定など、活動のレベルアップを進めていきます。

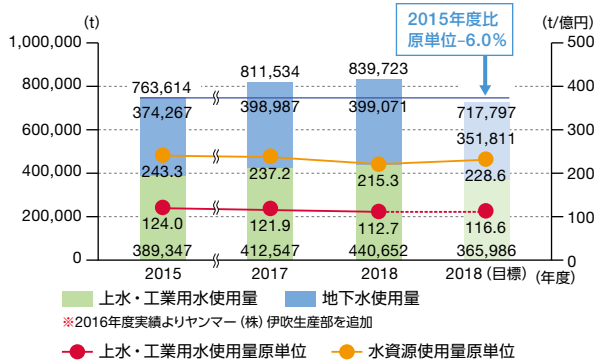
廃棄物排出量（海外）



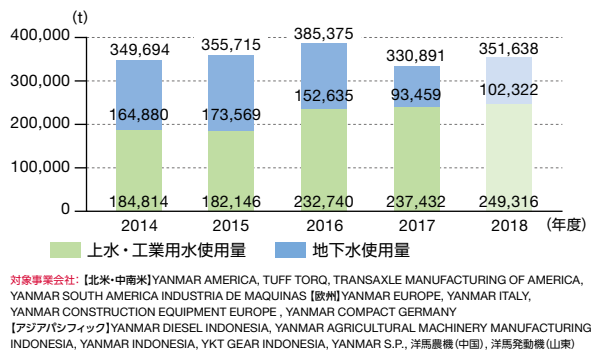
■水資源使用量の削減

ヤンマーグループは、省資源化への取り組みとして工場内における水の循環利用を推進しています。国内製造事業の水資源使用量については、2018年度は2015年度比で原単位6.0%削減することを目標としていましたが、実績は11.5%の削減となり、目標を達成することができました。

水資源使用量・水資源使用量原単位（国内）



水資源使用量（海外）



環境負荷物質の削減・管理

有害な化学物質や環境負荷物質の
削減と管理に努めています

■化学物質の排出削減

環境に配慮した製品開発と環境リスクの低減を図るために、日本のPRTR制度に基づく指定化学物質の使用量の管理・排出量の削減に取り組んでいます。

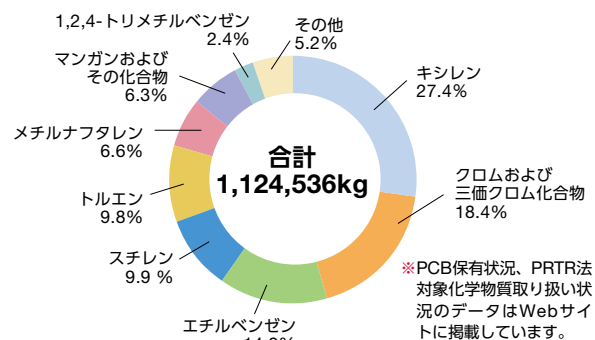
2018年度のPRTR対象物質の使用量は、基準年である2011年比において、原単位で29.1%の削減を実現しましたが、取扱量は昨年度より約35t増加しました。

その主な要因は、グループ製品の生産増や、塗装・船舶製造用の有機溶剤使用量が増加したためと推定されます。

次期環境中期計画では、国外の事業所については、新たに

所在国のPRTR制度に基づく対象物質の管理を目標に掲げ、管理体制のレベルアップを図ります。

PRTR法第一種指定化学物質の取り扱い状況



■サプライチェーン全体で環境負荷物質を管理

「グリーン調達ガイドライン」に基づき、取引先から供給される資材や部品に含まれる環境負荷物質の含有量を2008年度から調査しています。

これらの情報は「製品含有環境負荷物質管理システム」により一元管理され、グループ各社にて情報共有を行っています。

今後もヤンマー製品に含まれる環境負荷物質の調査・管理に努め、環境負荷物質の削減に努めていきます。

ヤンマーグループ共通禁止物質については、社内適応基準を定め、計画的に削減を推進しています。

ヤンマーグループ共通禁止物質

アスベスト、特定フロン(CFC、HCFCその他)、PCBs、PBB/PBDE、水銀、カドミウム、六価クロム、塗料中の鉛、RCF(リフラクトリーセラミックファイバー)

生物多様性への取り組み

自然との共生、生態系の保全に取り組んでいます

ヤンマーグループは、生物多様性の保全に向け、各事業所での排気ガスおよび排水による環境汚染の防止や、従業員への安全・啓蒙活動の実施、梅田ミツバチプロジェクトの支援(P44コミュニティ参画・発展で紹介)など、自然との共生に配慮した事業活動の推進に取り組んでいます。

また、廃食油発電事業(P14-15特集 VISION01で紹介)や、食品残さ・粉殻などの食品系廃棄物を利用したバイオガス事業の推進、農漁業の資源回復と新しい価値の提供を目的としたバイオイノベーション事業など、生態系の保全に貢献する製品・サービスの提供に取り組んでいます。